とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	６６－０３８２
施設名	東福保育園
施設所在地	東京都福生市福生２０９
法人名	社会福祉法人　慈光会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

「色」

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

生活や遊びの中で色は常にふれているものであり、日常の遊びの中の一場面を切り取っていった。そこから月齢や一人ひとりの成長に合わせてその時の子どもたちの興味や関心にあった遊びを楽しめるようにしていった。

２．活動スケジュール

①ウォーターブロックにふれる②いろいろな色のシフォン布にふれる
③センサリーバッグにふれる④絵の具にふれる
⑤ふうせんにふれて遊ぶ⑥絵本を見る⑦葉っぱにふれる
⑧タンポをして色がつくことに気づく⑨くだものの形をしたセロファンにふれる
⑩セロファンがついたおうちを使って遊ぶ⑪ふうせんにふれて遊ぶ

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

初めは三原色を意識し、子どもたちが目で見てはっきりと分かるものを用意した。
少しずつ色は増やしていったが、淡い色はあまり使わないようにした。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

①ウォーターブロックにふれる②いろいろな色のシフォン布にふれる
③センサリーバッグにふれて遊ぶ④指先や手のひらで指絵の具の感触を味わいふれる
⑤ふうせんにふれて遊ぶ⑥色のはっきりした絵本を見て指さしや喃語を言って楽しむ
⑦さまざまな色の葉っぱにふれる⑧タンポをして色がつくことに気づき楽しむ
⑨くだものの形をしたセロファンにふれる
⑩色のついた窓(セロファン)がついたおうちを使って遊ぶ⑪ふうせんにふれて遊ぶ

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
初めは色にふれるというより、身近な玩具に慣れるところから始めていったが、成長とともに興味を持ってふれたり簡単なことばを発して保育士とやりとりを楽しめるようになった。また、友だちと一緒に関わって楽しむ姿もあった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

１年を通して意識して「色」にふれさせなくてもいつでも私たちの周りには色があふれていて楽しんでいるものであると改めて気づかされた。色から玩具や食べ物に興味をもつきっかけにもなり、発語にもつながると感じた。楽しめる環境を大人が作っていくことが大切なので職員間で話し合っていき、これからも一人ひとりの興味のある遊びを見極めていきながら楽しんでいきたい。